

# 糸島市の人口異動状況について

市長短信  
H30年4月25日

## 1 人口の増加とその影響

平成29年度は糸島市誕生以来、最大の「人口増」

[増] 転入・出生等： 5,112人

[減] 転出・死亡等： - 4,522人

合計： 590人 住基人口 (H30.3.31：100,721人)

➤ 主な要因は「社会増」

- ・ 社会増減だけを見ると、857人の転入超過
- ・ 過去3か年度 (H27～H29) 合計では、1,726人の社会増  
積極的なシティセールスによる認知度向上と市内の住宅地開発の効果

「外国人」の増加への注目

➤ ここ数年で、外国人の増加が目立ってきている。

【外国人数】 H21：521人 H29：821人 (約1.6倍)  
住民基本台帳人口

➤ 九州大学への留学生や就労者等が増加

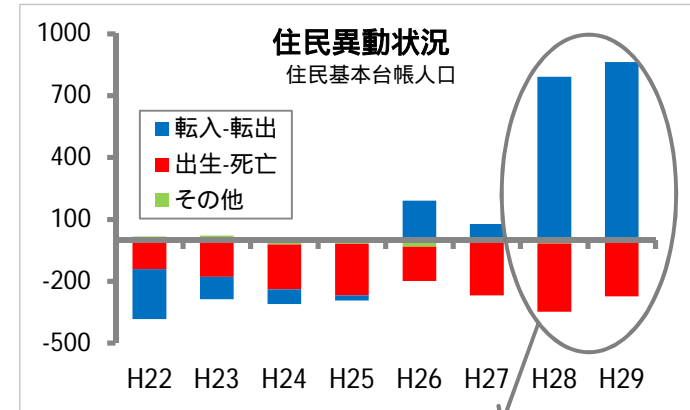
【九大留学生数】 H21：1,713人 H29：2,201人 (約1.3倍)

伊都キャンパスへの移転計画完了時 (H30.10) には、同キャンパスで約8割の留学生が学ぶ予定。

【外国人労働者数】 H24：406人 H29：1,671人 (約4.1倍)

福岡西職業安定所の所管地域の数字

外国人の活力を生かした地域活性化 (九州大学国際村構想の推進、糸島市国際観光大使の活用など) を図るとともに、受入体制の整備を進める。



自然“減”を上回る社会“増”が顕著になる



2017.5.30 「地域の国際化に関する協定」締結及び「九州大学国際村構想」発表

子育て世代の人口増加に伴う待機児童問題や、外国人の受入体制整備など新たな課題も出ている。こうした課題に丁寧な対応をしつつ、あらゆる人にとって住みよいまちづくりを進めていく。また、長期的に見れば、将来的に人口の減少は避けられない。この現実を受け入れ、良い傾向が見られる今のうちに、子育て支援の充実やインフラの整理、財政の健全化など、将来に備えた対策を進める。

# 外国人観光客の受入について

## 2 増加する外国人観光客と受入体制の整備

### 糸島市の外国人観光客の現状 (H28 観光入込み客数)

#### >急増する外国人観光客

5年間で23.8倍の伸び(35,443人増)

- ・「一蘭の森」に大型バスで来る団体客が増加したことが主な要因。
- ・その他、個人旅行者には、二見ヶ浦や雷山千如寺など写真映える景勝地や、白糸の滝のそうめん流しなど体験ができる観光地が人気。

受入体制や観光資源を総合的に考えると、ターゲットとしたいのは、香港や台湾、韓国など東アジアのFIT(個人旅行者)

#### 課題

##### 糸島の認知度はまだまだ低い

>福岡市の外国人観光客(H28:257万人)と比べると、1.4%程度

##### 2次交通が不便

>バスが日本語表記で分かりにくい。目的地を周遊しにくい...etc

##### 多言語対応の事業所間格差

>多言語メニューやスタッフの配置など事業所間の差が大きい

#### 今後の方策

##### プロモーション強化

>周辺自治体との連携、東アジアの雑誌社やプロガー等による情報発信

>九州大学と連携した情報発信

国際観光大使の活用、留学生との協働による英語版観光パンフ作成

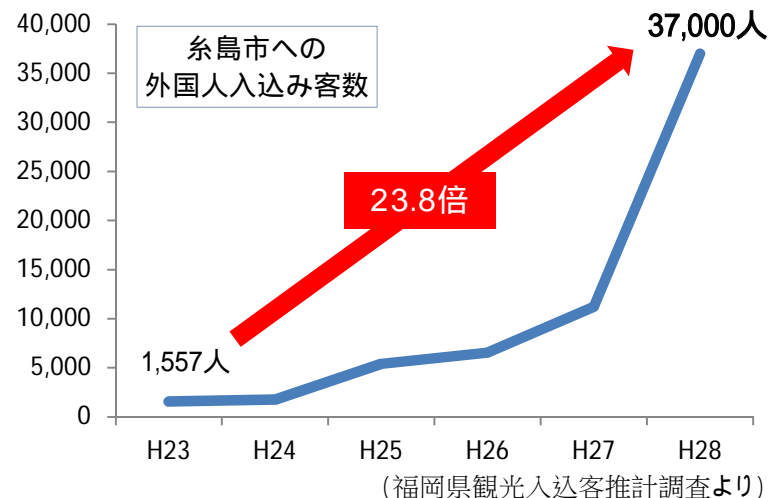
>観光大使(ニックサーズ氏など)による継続した情報発信

>地域おこし協力隊(観光、英語対応)による情報発信強化

##### おもてなし力の向上

>ふくおかよかところコールセンター(電話による同時通訳)の利用促進

>英語対応可能な観光ボランティアガイドの発掘・育成



←↓国際観光大使による観光体験



# 糸島が誇る「日本一のマダイ」を全国の食卓へ

## 3 糸島の「日本一のマダイ」の活用

### マダイ漁獲量、6年連続日本一

- 糸島市誕生以来、6年連続（H22～H28）
- 対馬海流が流れる糸島半島北部の海は、起伏に富んでおり、栄養分も豊富で産卵に適しているため、マダイが多く集まる。
- 豊かな海、玄界灘の恩恵を受け、先人から受け継がれてきた漁法「吾智網漁」を守り続ける代々の漁師に支えられた「日本一」である。

しかし、ここ数十年で、マダイの価格は大きく下落



H16：1,282円/kg  
H29：632円/kg  
(半値以下に)

販売先となる「出口」を支える販売戦略を確立し、販売単価を上げる取組が必要

### 博多女子高校とのマーケティングプロジェクト第2弾に「マダイ」を活用

- 売れ行き好調な第1弾商品「ふともずく」に続き「第2弾商品」の開発が進む。
- 糸島市が「日本一」の漁獲量を誇る天然真鯛に注目  
『鯛だしスープ』を商品化
- 開発には、食品産業クラスター協議会の㈱やますえが全面協力  
同社のマダイ加工品から出る「あら」を保存・活用
- 玄界灘で育まれた天然真鯛の「あら」から作るスープは絶品
- アンケートなどのリサーチを重ね、データを基に商品開発やマーケティング法を検討。
- 現在、サンプル品は完成し、販路に合わせた商品製造段階

5月末から6月上旬には完成品をお披露目予定。  
その後、博多女子高生による営業、宣伝がスタートする。

【市町村別マダイ水揚げ量ランキング】

順位	市町村名	漁獲量(t)
1	糸島市	1,129
2	今治市	554
3	福岡市	464
4	佐世保市	418
5	南知多町	409

(農林水産関係市町村別統計より)

